

松本養護学校基本方針検討懇談会

第3回発言要旨

1 期 日

○令和元年 10月9日(水) 13:30~15:30

2 内容の概要

○第2回検討懇談会の論点を整理し、目指す学校像について具体的に議論した。

○具体的な学校像

【一人ひとりの教育的ニーズに応じた日々の教育が充実する学校】

- ・学校に対する保護者のニーズは、休日の宿泊や放課後のみの利用といった福祉的なニーズも増えている。50年先を見越して取組ことと、早急にやることを整理する必要がある。
- ・稲荷山養護学校では、先進的に第3次産業の作業種を採り入れた。松本養護学校でも第3次産業を試行していくことを期待している。卒業生が役所で清掃等をしている姿を見ると、在学中にもっとスキルを身に付けられるのではないかと感じる。

【寄宿舎】

- ・学校と一般の方との間に寄宿舎の利用に対する認識の差がある。休日等で家庭にいられないときに、寄宿舎を利用したいという福祉的なニーズもある。学校の立場や役割を理解していただけるように伝える必要がある。
- ・保護者が寄宿舎利用を希望するのは、「寄宿舎では家庭ではできない生活習慣の確立をやっていただける」という一面もある。家庭としては、「レスパイトに頼まなくても寄宿舎に頼めるとありがたい」というニーズもある。
- ・寄宿舎については、保護者、福祉関係、地域の方の思いも検討の中に加えたい。

【地域とつながり、社会で生きる力、生涯学び続ける力をつける学校】

- ・地域交流スペースの整備は地域としてもありがたいが、大切なのはそこで行う交流の中身である。学校が考えていることと地域が考えていることにずれがないようにしたい。
- ・地域の方が気軽に足を運び、日常的に接点をもてることを目指したい。
- ・副学籍は保護者や本人の希望ではなく、特別支援学校のどの子にも地域の学校に学籍があるという方向がよい。
- ・副学籍交流の際に保護者が学校に送迎することが課題となっている。理念としてはよいが、課題も整理したい。

【専門性とチーム力を高め、多様な専門家と連携してニーズに対応する学校】

- ・新たに県で位置付けた専門性サポートチームを松本養護学校としてどう活用していくのか示していきたい。

【センター的機能を通してインクルーシブをリードする学校】

- ・今井地区の方に温かく受け入れていただき、地域を挙げて共生社会を実現する地区になろうとしている。その地区の願いに松本養護学校がどれだけ貢献できるのかをセンター的機能として考えていきたい。